

自治体情報システム(基幹システム)の標準化・共通化及びガバメントクラウド接続関連経費

●概要と令和7年度経費

参 考 資 料 2
 予 算 特 別 委 員 会
 総 務 課
 令 和 7 年 2 月 2 0 日

自治体情報システムの標準化・共通化

これまでの取組・現状

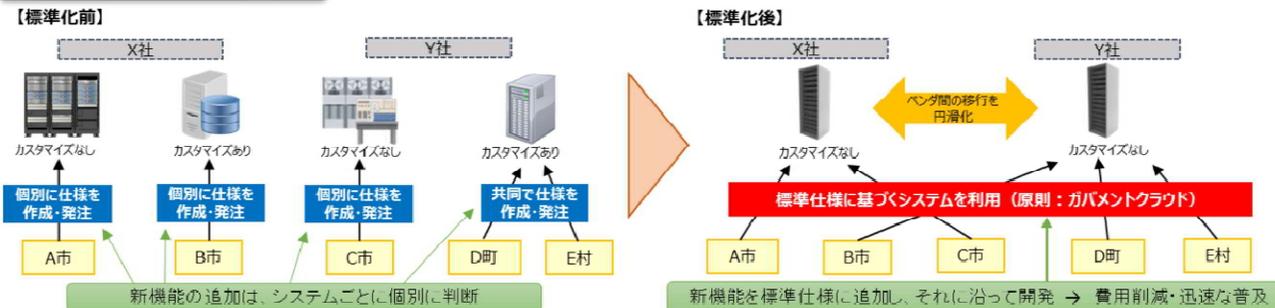
- 自治体ごとにおける情報システムのカスタマイズにより、
 - ・維持管理や制度改正時の改修等において、自治体は個別対応を余儀なくされ負担が大い
 - ・情報システムの差異の調整が負担となり、クラウド利用が円滑に進まない
 - ・住民サービスを向上させる最適な取組を迅速に全国へ普及させることが難しい 等の課題が発生。
- このような状況を踏まえ、地方公共団体に対し、標準化対象事務(※) について、標準化基準に適合した情報システム(標準準拠システム)の利用を義務付ける「地方公共団体情報システムの標準化に関する法律」が成立。

※ 2.0業務 (児童手当、子ども・子育て支援、住民基本台帳、戸籍の附票、印鑑登録、選挙人名簿管理、固定資産税、個人住民税、法人住民税、軽自動車税、戸籍、就学、健康管理、児童扶養手当、生活保護、障害者福祉、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療、国民年金)

目標・成果イメージ

- 標準化・共通化の取組により、人的・財政的な負担の軽減を図り、自治体の職員が住民への直接的なサービス提供や地域の実情を踏まえた企画立案業務などに注力できるようにするとともに、オンライン申請等を全国に普及させるためのデジタル化の基盤を構築。
- 令和7年度(2025年度)までに、ガバメントクラウドを活用した標準準拠システムへの円滑な移行を目指す。

情報システムの標準化イメージ



葉山町は令和7年11月より国が示す仕様に則した標準準拠システムをガバメントクラウド(AWS)で運用開始。それに伴うイニシャルコスト、ランニングコストを令和7年度予算計上

イニシャルコスト	100,689千円	付属説明書P52・53	神奈川県町村情報システム事業(3)(7)
ランニングコスト	17,257千円	付属説明書P52	神奈川県町村情報システム事業(4)・(5)のうち1,939千円
合計	117,946千円		
歳入(デジタル基盤改革支援補助金)	98,473千円	付属説明書P39 雑入	総務費雑入(10)デジタル基盤改革支援補助金
一般財源	19,473千円		

←葉山町は生活保護と児童扶養手当以外の18業務が対象。戸籍は共同調達ではなく単独システム(町民健康課所管)

標準化・共通化システム移行費
 付属説明書P53
 神奈川県町村情報システム事業
 (7)ア・イ

●葉山町からのガバメントクラウドへの接続について

葉山町(図では団体A)の基幹系端末から、ガバメントクラウドに置かれるTKC基幹系システムにアクセスするために、通信経路の設計・設置等が必要となります。アクセス経路としては、「葉山町庁内ネットワーク」→「葉山町～ガバメントクラウド間」→「ガバメントクラウド(AWS)」となります。

(1) 庁内ネットワークにおける設計・機器整備・保守：付属説明書P52・53 神奈川県町村情報システム事業(3)・(5)のうち337千円・(7)ウ・エ
 現在基幹系システムがあるTKCデータセンター(TISC)へ接続するためのネットワーク機器を、ガバメントクラウドに接続するためのネットワーク機器に、設計・整備・更新し、ネットワーク機器の保守をします。

(2) 葉山町～ガバメントクラウド間の通信の設計・整備・保守・ランニングコスト：付属説明書P52神奈川県町村情報システム事業(5)のうち1,602千円
 ガバメントクラウドへの通信経路の設計・整備をします。また接続開始後は、ガバメントクラウドへの常時接続可能な状態に保つための「ネットワーク運用管理補助者」としての運用・保守を行います。

(3) ガバメントクラウド(AWS)上で基幹系システムを稼働させ、そのシステムへ葉山町からアクセスするための設計・整備・保守・ランニングコスト
 :付属説明書P52 神奈川県町村情報システム事業(4)

- システム運用管理補助者がAWS内で基幹系システムを構築し、利用実績をデジタル庁に報告します。
- ネットワーク運用管理補助者がAWS内の基幹系システムへの通信を構築し、AWS利用実績をデジタル庁に報告します。

